

I 事業の概要

重点評価

I-1 事業の概要

事務事業名 ホーム・シアトルス	資源ごみ等の“新回収システム”モデル事業	所管局部課等	環境政策局循環型社会推進部循環企画課
		(連絡先)	213-4930
		(評価票作成者)	循環企画課長 牧村 雅史

22決算額 (千円)		23予算額 (千円)		今後の方向性			24予算額 (千円)		目標達成度評価														
-		20,300		現状のまま継続			31,100		指標： 移動式回収の実施回数														
									かなり悪い 悪い 普通 良い かなり 0%10%20%30%40%50%60%70%80%90%100%110%120% H20年度 H21年度 H22年度														
業務運営方法		☐ 直営		委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容																			
		☒ 部分委託		(名称) 未決定																			
		☐ 部分補助等		(内容) 移動式の資源回収モデル事業及び有害・危険ごみの処理																			
		☐ 全部委託																					
		☐ 全部補助等																					
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)		京都市循環型社会推進基本計画 (2009－2020)									事務事業の性格		☐ 義務的事業 ☒ 任意的事業										
											類型		1 1 その他										
開始時期		平成	23	年度	終了(予定)時期	平成	24	年度	会計区分 ☒ 一般会計 ☐ 特別会計														

事業概要	対 象	(誰を, 何を) 市民から「出し方に困る」との意見のある蛍光管や刃物, 塗料・溶剤, 薬品類, ライターなどの有害・危険ごみや, 古着などの資源物。
	活 動 容	(どのような手段で) 日ごとに場所を変えて行う移動式の資源回収を, 学校や公園などの地域の広場を活用し, モデル的に実施する。 また, 今後は, モデル事業における回収状況や, 参加した市民へのアンケート調査等を通じ, 最適な回収品目と回収場所の選定方法, 回収頻度等, 本格実施に向けた検討を行う。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) 京都のまちの特性である地域力の強みを活かしながら, 地域特性に応じた多様な資源回収の機会を拡大する。

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)				20,300	31,100
		旅費 (視察)				300	300
		需用費 (チラシ・ポスター制作費)				4,300	4,300
	①'	委託料 移動式の資源回収モデル事業及び有害・危険ごみの処理委託				15,700	26,500
	②	委託料が事業費に占める割合 (①' ÷ ①) (%)				77. 3%	85. 2%
	③	人件費 (24年度は見込) (千円)				7,372	8,287
		職員(課長級) (人)				0.04	0.12
		職員(課長補佐級、係長級) (人)				0.34	0.34
		職員(係員) (人)				0.42	0.42
		嘱託職員等人件費 (千円)					
	④	年間経費 (①+③) (千円)				27,672	39,387
	⑤	特定財源 (市税等の一般財源以外) (千円)				20,300	31,100
		国庫・府支出金 (千円)					
		受益者負担分(使用料, 手数料等) (千円)					
		その他(基金繰入金) (千円)				20,300	31,100
	⑥	京都市年間負担経費 (④-⑤) (千円)				7,372	8,287
	⑦	受益者負担率 (受益者負担分÷④) (%)				0. 0%	0. 0%

平成23年度
(平成22年度分)

事業名 資源ごみ等の“新回収システム”モデル事業

Ⅱ 評価結果

Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価

評価実施年度 **23** 年度

A 公共性	(公益性) ☒ より多くの市民に提供されるサービス ☐ 特定の個人又は集団に提供されるサービス	(必需性) ☐ 日常生活に必要不可欠なサービス ☒ 日常生活に必要不可欠でないサービス	『公共性評価』 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1158 315 1326 456"> ②必需・個人消費性 </td> <td data-bbox="1326 315 1487 456"> ①必需・共同消費性 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1158 456 1326 598"> ③選択・個人消費性 </td> <td data-bbox="1326 456 1487 598"> ④選択・共同消費性 </td> </tr> </table> 個人消費性(私益) 共同消費性(公益) 選択	②必需・個人消費性	①必需・共同消費性	③選択・個人消費性	④選択・共同消費性
②必需・個人消費性	①必需・共同消費性						
③選択・個人消費性	④選択・共同消費性						
B 行政関与の妥当性	関与の妥当性の程度(高・中・低) 高	(判断理由) 家庭で保管したり，家庭ごみへ排出されるなど，適正な処理がされていないため，周知啓発を実施していく。					
C 受益者(サービスを受ける側)負担の妥当性	<table border="1"> <tr> <td>(負担を求める必要性)</td> <td>(見直しの必要性)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">無</td> <td style="text-align: center;">無</td> </tr> </table>	(負担を求める必要性)	(見直しの必要性)	無	無	(判断理由) 特定の受益者は存在しない。	
(負担を求める必要性)	(見直しの必要性)						
無	無						
D 実施主体(サービスを行う側)の妥当性	(政策性) ☒ 政策的意思決定を必要とするサービス ☐ 経常業務の度合いが高いサービス	(行政専門性) ☒ 行政上の専門知識を必要とするサービス ☐ 行政上の専門知識を必要としないサービス	『実施主体の妥当性評価』 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1158 949 1326 1090"> ②経常的・行政専門性 </td> <td data-bbox="1326 949 1487 1090"> ①政策的・行政専門性 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1158 1090 1326 1232"> ③経常的・一般専門性 </td> <td data-bbox="1326 1090 1487 1232"> ④政策的・一般専門性 </td> </tr> </table> 経常業務 政策形成・意思決定 一般専門性	②経常的・行政専門性	①政策的・行政専門性	③経常的・一般専門性	④政策的・一般専門性
②経常的・行政専門性	①政策的・行政専門性						
③経常的・一般専門性	④政策的・一般専門性						
その他	事務事業実施上の課題，環境等外部要因の変化等 回収品目と回収場所の選定方法，回収頻度等，本格実施に向けたモデルの最適化。	当該事務事業を廃止・休止した場合の影響 家庭で保管したり，家庭ごみへ排出されるなど，適正な処理がされない。	どのような状態になれば事務事業の廃止を検討するのか 民間によるリサイクルシステム又は適正な処理システムが構築された場合。	他の自治体の動向 <取組・見直し状況等> 資源物(古紙，古布類のみ)の移動回収を開始(箕面市)			

Ⅱ 評価結果

事業名 資源ごみ等の“新回収システム”モデル事業

Ⅱ-2 業績評価

A 目標達成度	指標名	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
指標1	移動式回収の実施回数	目標値 …①	回				84	168
		実績値 …②	回					
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類	増加することが良いとされる指標		評価				
指標2		目標値 …①						
		実績値 …②						
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類			評価				
				総合評価				
指標の選択理由				目標値設定の考え方				
指標1	市民への利便性向上を図るための指標として選択			全区役所・支所14施設から各2地域選び、1地域につき3回移動式回収を実施する。				
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名		適用年度		単位		
指標2								
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名		適用年度		単位		
分析	<実績値の変動理由等>							
B 効率性	No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度		
	①	移動式回収実施回数 (6箇月)	回					
	②	年間経費 (事業費及び人件費の合計額)	千円					
	③	単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位					
	④	単位当たり経費変動率						
						評価		
分析	<コスト変動の理由等>							
C 市民参加度	企画段階	☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無	<現状分析, 今後の方針等> モデル事業実施結果をとりまとめ時, 公表予定。					
	実施段階	☐ 高 ☒ 中 ☐ 低 ☐ 無						
	評価段階	☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無						
D 市民満足度	<調査の有無>		<調査結果, 現状分析等> モデル事業実施結果をとりまとめ時, 公表予定。					
	☒ 有 ☐ 無 ☐ 該当しない							
	<調査方法> アンケート	<調査時期> モデル事業実施中						
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	☒ 環境 ☐ 関連 ☐ 一般		<現状分析, 今後の方針等>					

平成23年度の実施状況 移動式資源回収を行うとともに、回収率を高めるための普及啓発を適宜実施している。

市会・監査・外部機関等からの指摘

Ⅲ 今後の方向性

(今後の方向性の理由及び具体的な内容)

現状のまま継続

回収率を高めるための普及啓発を実施していくとともに、移動式資源回収の構築に向けた取組を進める。
なお、平成24年度から事務事業名を「移動式資源回収モデル事業」とする。